



みんなが暮らしやすい
社会をめざして!!

[著] 河東田 博

浦和大学総合福祉学部特任教授



知っておきたい
**障がいのある人の
SOS**



全5巻+別巻1巻



ゆまに書房

障がいを持った人たちの気持ちを理解するために

みなさんは、障がいのある人のSOSって何だと思いますか？ 障がいのある人たちは、障がいのためにこまっていることがたくさんあります。こまつたときに何かサインを出しているはずです。そのときのサインはどういうサインなのか、何を求めて出しているサインなのか、私たちがそのサインを読み取ることができたら、障がいのある人のこまつていることはかなり減るはずです。この本では、障がいのある人が、こまつて出しているサインのことを、SOSと呼ぶことにします。障がいのある人が出しているSOSを読み取り、SOSに対処するためにはどうしたらよいのか、などを一緒に考えていきましょう。

2. 障がいのある人は「陸前高田」をどう描いたか？

家も絵もすべて津波に流された！



絵にこめられたメッセージ



右の一本松の絵は、「東日本大震災」

それぞれの人のSOS

別巻
本文見本
45%に縮小



(34歳)

金野真紀さんは、「文字」がほしいと言っていました。真紀さんのSOSを減らすためには、街を早く復興・再生させ、「文字」が見られるようにすることです。復興・再生の街づくりデザインを描いている人たちの頭の中に「文字」がないとしたら、急いで「文字」復興・再生の街づくりデザインを描いていく必要があります。

熊谷正弘さんは、「友だち」がほしいと言っていました。遊びに行くところがなくなり、たくさん来てくれていたボランティアが来てくれなくなってしまった、「寂しい」と言っていました。正弘さんのSOSを減らせるように、話し相手になり、寄りそつてくれる人がまた来てくれることを願っています。

菅野満さんは、目に見えにくい障がいがあるとますます理解されにくくなるのではないか、そのため、理解されにくい障がいのある人のSOSは、なかなかわからもらえない、と語っていました。でも、上手にSOSを減らし、心の病気にかからないようにしてください、と言っていました。

◆ 東日本大震災の時

東日本大震災の時はたいへんでした。私の家族で、私の子ども、娘と息子の2人は、春休みだったかな？ クラブ活動から帰ってきて、家で昼食をすませ、その後に地震にあいました。

▼ 地震時のように



地震は、長くて、強いゆれで、こわかったです。家の中は、ぐじやぐじやで、たいへんでした。電気も、水道も、なにもかも使えなくなり、私は、何もわからず、家族ともコミュニケーションがとれなくて、ただただボーとしているだけでした。外は、人と車でいっぱい、何がなんだかわかりませんでした。

▼ コミュニケーションがとれなくてこまつ



避難所に行っても、どこに行っても、手話のできる人がいなかったため、この時ほど、手話ができる人がほしいと思ったことはありませんでした。手話ができないなら、筆談でもいい。聞こえない人の気持ちになって、教えてほしいと思いました。

地震が起きてから、なぜコミュニケーションがとれる人がいないのだろう？ と思いました。コミュニケーションがとれる人たちに出会うままで、長い時間がかかったように思います。

4. 障がいのある人たちからのSOS

(1) 聞こえにくい人のSOS

金野 真紀さん(53歳)



▲ 金野真紀さんは、耳が聞こえにくい

別巻
本文見本
65%に縮小

金野真紀さんは、クリーニング関係の仕事をしています。



▲ クリーニングの仕事をする金野さん

陸前高田市の福祉政策を検討する「共に生きるワーキンググループ」にも参加しています。どうしたら、障がいのあるなしにかかわらず、共に生きていくことができるのかを、メンバーといっしょに、どうしたら市の福祉政策にいかしてもらえるのかを考えています。

別巻
本文見本
45%に縮小



(49歳)

(64歳)

(38歳)

(38歳)

(38歳)

(38歳)

(38歳)

熊谷貢一さんは、都会の目の見えにくい人と被災地の目の見えにくい人とは、置かれている状況がまったく違うと強調していました。被災地はSOS(パリア)ばかりだからです。被災地は、点字ブロックのないデコボコ道路しかなく、信号の音も聞こえません。ついらい日々を送っている人たちに元気をとどけてほしいと言っていました。

熊谷勝夫さんは、街の中で早く車イスで移動できるようにほしい。建物にも、お店にも、車イスで簡単にはいれるようにしてほしい。住宅の中、台所も、トイレも、風呂場も、自分の部屋も、共用の部屋も、車イスで自由に使えるようにしてほしい、と言っていました。勝夫さんや仲間の切なが頼んでいます。

菅野満さんは、目に見えにくい障がいがあるとますます理解されにくくなるのではないか、そのため、理解されにくい障がいのある人のSOSは、なかなかわからもらえない、と語っていました。でも、上手にSOSを減らし、心の病気にかからないようにしてください、と言っていました。

井筒雄一郎さんは、災害FMの名アンカーです。上手な語りで、聴き手をまきこんでいます。川柳も圓蔵も相当の腕をもっています。哲学から小説まで幅広い知識をもっています。両親も家は津波でなくし、一人で駆けつけられて

（5）理解されにくい人のSOS

菅野 満さん(38歳)

菅野満さんは、家庭にいろいろな問題をかかえ、心の病気になってしましました。

入院してしまったため、会社をやめざるをえませんでした。SOSの連続でした。今は、福祉に大きくなっています。今は、福祉事業所で、クリーニングのプレスの仕事をしています。もう7～8年になります。年金と工賃で、何とかくらしていくことができます。

◆ 東日本大震災の影響

市営住宅に住んでいますが、東日本大震災の時は、住んでいる部屋の下まで津波がきました。でも、何とか助かりました。

上屋・日曜は買い物に行きます。以前は陸前高田市内で買い物をしていましたが、今は大船渡までBRT（バス高速輸送システム）で買い物に行かなければなりません。とても不便になりました。

目次から

第1巻 聞こえにくい人のSOS

- はじめに
- どうして、耳が聞こえにくくなるの？
- 耳が聞こえにくい人のSOS
- 街に出て調べてみよう
- 耳が聞こえにくい人のSOSを体験してみよう
- 耳が聞こえにくい人の経験を聞いてみよう
- SOSを出している人に声をかけてあげよう
- 耳が聞こえにくい人に「役立つ情報」
- おわりに

第2巻 学びにくい人のSOS

- はじめに
- どうして、知的障がいになるの？
- 知的障がいのある人のSOS
- 街に出て調べてみよう
- 知的障がいのある人のSOSを減らすために
- 知的障がいのある人のSOSの経験を聞いてみよう
- 知的障がいのある人も、社会参加を！
- 知的障がいのある人に「役立つ情報」
- おわりに

第3巻 見えにくい人のSOS

- はじめに
- どうして、目が見えにくくなるの？
- 目が見えにくい人のSOS
- 街に出て調べてみよう
- 目が見えにくい人のSOSを体験してみよう
- 目が見えにくい人の体験を聞いてみよう
- 目が見えにくい人も、社会参加を！
- 目が見えにくい人に「役立つ情報」
- おわりに

第4巻 体を動かしにくい人のSOS

- はじめに
- どうして、体を動かしにくくなるの？
- 体を動かしにくい人のSOS
- 街に出て調べてみよう
- 体を動かしにくい人のSOSを体験してみよう
- 体を動かしにくい人の経験を聞いてみよう
- 体の動かしにくい人も、社会参加を！
- おわりに

第5巻 理解されにくい人のSOS

- はじめに
- 理解されにくい障がいについて考えてみよう
- 理解されにくい人のSOS
- 街に出て調べてみよう
- 理解されにくい人のSOSを体験してみよう
- SOSを出している人に声をかけてあげよう
- 障害が理解されにくい人からのメッセージ
- 理解されにくい難病患者からのメッセージ
- おわりに

別巻 被災地の人SOS

- はじめに
- 障がいのある人は「陸前高田」をどう描いたか？
- 被災した障がいのある人たちの今は？
- 障がいのある人たちからのSOS
- 障がいのある人のSOSを減らすために
- おわりに

知っておきたい 障がいのある人のSOS

全5巻+別巻1巻

[著] 河東田 博 ● 汎定価：本体18,000円+税(各本体3,000円) ISBN978-4-8433-4588-7 C8336

各巻の構成

2015年5月
全5巻 +
別巻1巻
同時刊行

- B5判上製／カバー装
- オールカラー
- 各巻平均36頁

- 第1巻 ● 聞こえにくい人のSOS ISBN978-4-8433-4589-4
- 第2巻 ● 学びにくい人のSOS ISBN978-4-8433-4590-0
- 第3巻 ● 見えにくい人のSOS ISBN978-4-8433-4591-7
- 第4巻 ● 体を動かしにくい人のSOS ISBN978-4-8433-4592-4
- 第5巻 ● 理解されにくい人のSOS ISBN978-4-8433-4593-1
- 別巻 ● 被災地の人のSOS ISBN978-4-8433-4594-8



本書の特色

- 障がいを持った人が、こまっている時どのようなSOSを送っているのかを分かりやすく解説。
- まわりの人が、どのような手助けをすればよいのかを豊富な写真やイラストでやさしく学べます。
- 聞こえにくい、見えにくいなど、さまざまな障がいを持つ人たちを巻ごとに分けて紹介。
- 別巻では「東日本大震災」で被災された障がいのある方々の暮らしや、抱えているさまざまな問題点とその解決方法を考えます。

■著者紹介：河東田 博 かとうだ・ひろし 東京学芸大学特殊教育学科卒業。ストックホルム教育大学(現ストックホルム大学)大学院教育学研究科博士課程修了(Ph.D)。四国学院大学、徳島大学、立教大学教授を経て、現在、浦和大学総合福祉学部特任教授。専門はノーマライゼーション論・障害者福祉論。主な研究領域は、スウェーデンの障害者政策・脱施設化と地域生活支援・当事者参画。『脱施設化と地域生活支援：スウェーデンと日本』(現代書館2013年)ほか著書多数。

ゆまに書房 ☎ 101-0047 東京都千代田区内神田2-7-6 TEL.03(5296)0491 FAX.03(5296)0493 <http://www.yumani.co.jp/>

ご注文書	ゆまに書房 Tel.03(5296)0491/Fax.03(5296)0493 年 月 日	毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。
お名前	知っておきたい 障がいのある人のSOS 全5巻+別巻1巻	セレクト
ご住所	● 汎定価：本体18,000円+税 ISBN978-4-8433-4588-7 C8336	取扱店
TEL	()	